

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12467

研究課題名（和文）中国語の段階別読み物（GR）の分析

研究課題名（英文）Analysis of Chinese Graded Readers

研究代表者

石井 友美（ISHII, Tomomi）

岡山大学・教育推進機構・講師

研究者番号：60802072

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中国語の段階別読み物（GR）が初級学習者に適しているか探るものである。2018年度は初級学習者に既存のGR読んでもらい、理解度を測った。その結果、理解度は高くないということがわかった。2019年度は10か月の多読活動において既存のGRが初級学習者に適しているか考察を行った。具体的な方法は2019年4月から10か月、多読活動を行い、活動中と活動後のアンケートで学習者のGRに対する理解度を考察した。2020年度～2022年度は2018年、2019年の結果を踏まえて初級者に適したGRを制作した。制作した作品は<https://tagengoch.jimdofree.com/>で公開されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は既存の中国語段階別読み物（GR）が初級学習者に適していないということを理解度テストから明らかにし、さらにこのテストから初級学習者にとって難しい文法、語彙、表現は何かを明らかにした。これらの結果に基づき新たに多読活動において初級者に適したGRを制作した。現在はまだ4冊しかないが、本研究に基づきさらに多くのGRを制作することで中国語多読活動に適した教材を提供することが可能になる。多読活動は英語教育などで学習者の運用能力が向上したという報告が見られる。本研究で制作したGRも中国語多読で用いることにより学習者の運用能力向上が期待できると思われる。

研究成果の概要（英文）：This study explores whether Chinese graded reading (GR) is suitable for beginning learners. In FY2018, we asked beginner to read existing GR materials and measured their comprehension level. In FY2019, we examined whether existing GR materials were suitable for beginner during a 10-month multi-reading activity. In FY2020 and FY2022, we produced GR materials suitable for beginner based on the results obtained in 2018 and 2019. The produced works are available at <https://tagengoch.jimdofree.com/>.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語多読 GR 理解度 中国語GR制作

1. 研究開始当初の背景

本研究は学習者の運用能力向上に繋がる段階別読み物(Graded Reader)を日本人初級中国語学習者に向けて分析、制作することを目的とするものである。段階別読み物(Graded Reader)とは外国語学習者のために作られた読み物のことで、学習者のレベルに合わせて語彙、文法数などが制限されている。以下、これをGRとする。本研究当初の背景について研究の着想の経緯となった運用能力向上の指導と外国語教育における多読活動の有用性の2点を挙げ、以下説明していく。

(1) 中国語教育における運用能力向上の指導

現在の中国語教育界では運用能力の向上に向けた教育方針が注目されている。近年、日本人学習者は中国語に対しては同じ漢字文化ということから、豊富な語彙知識、文法知識を有しているにもかかわらず、実際の使用場面、具体的に言うと、ネイティブスピーカーとの会話において十分にその知識を活用できず、上手くコミュニケーションが取れない状況を問題となっている。このような状況を改善すべく、1990年代後半から教室内でも運用能力を鍛える学習法の分析、開発がさかんに行われてきている。胡玉華(2009)は文法学習時に使用場面を提示することで、学習者に適切な使用場面を理解させ、運用能力の向上を図ることを提案した。また運用能力向上を主眼に置く流れは教科書にも顕著に表れている。例えば白水社の『できる・つたわるコミュニケーション中国語』、朝日出版社の『アクション!開始!コミュニケーション中国語』などがこの流れを汲む教科書である。本研究計画で対象となるGRも学習者の運用能力向上に繋がると英語教育、日本語教育で指摘されている。そのため本研究では中国語運用能力向上を目指し、中国語GRを研究対象とした。

(2) 外国語教育における多読活動の有用性

GRは外国語運用能力に繋がるという指摘が英語教育でなされている。その根拠を次に挙げていきたい。まず最初に挙げられるのがNPO多言語多読の酒井邦秀氏が推進する英語のGRを用いた「多読活動」の報告にある。「多読活動」とは字の通りに学習対象の外国語で書かれた書物も多く読むことであり、酒井氏はこの「多読活動」を通して学習者が語彙や文法の使用場面を物語を読むことを通して知らず知らずのうちに身につけ、樽から溢れる水の如く運用能力が溢れ出すことを報告している。例えばある会社員は大学時代に英語検定3級が不合格になって以来、英語学習から10年以上離れていたが、「多読多聴活動」を行うことで、英語運用能力が飛躍的に向上し、今ではその後何人も外国人の部下を持ち、英語で指示をし、すべての作業を英語でこなしているなどが挙げられる。これは学習者が物語を読み、聴くことで語彙や文法の使用例を多くインプットすることで可能になった現象である。また論文においてもHafiz and Tudor(1989)やDay and Bamford(1998)が英語を学ぶ学習者に多読を行った結果、運用能力が向上したと報告している。また西澤(2013)は短期留学などの国際交流とGRを用いた多読を行ったところ学習者は長期留学生と同等の英語運用能力を身に着けたと報告している。教室で教科書を用いて行う学習方法ではインプットされる語彙、文法数に限りがあり、このような効果を得ることは難しい。つまり学習者にとって学習対象の外国語の読み物を大量に読むことは運用能力向上に非常に有益であるということである。現在の中国語教育において運用能力向上のための対策として採られているのは前述したような胡玉華(2009)の指摘する「場面つき学習」や運用能力向上を目的とした教科書のみであり、GRを取り入れた学習方法の試みはなされていない。本研究では既に教科書や教育現場で採り入れられている運用能力向上の教育方法の強化として「多読活動」を捉え、「多読活動」に必要なGRを日本人に適し、尚且つ運用能力向上に繋げていくにはどうすべきか分析し、GRを制作し、さらには実際に用いて、学習者の運用能力向上に繋がるかを検証していくものである。

2. 研究の目的

本研究では学習者の中国語運用能力向上を目指したGRを考察、制作、そして効果の検証を目的とする。現在、日本の中国語教育界において運用能力向上を目的とした教材は多く出版されている。しかしこれらの教材は具体的な使用場面を理解し、表現を学ぶことができるが、知識のインプットがはるかに少なく、やはり上手にアウトプットが行うことができず、運用能力向上に繋がることはない。本研究の運用能力向上を目指したGRは既存の教材とは異なり、物語性を有するため具体的な使用場面を提示し、1つのテーマに関して様々な表現を扱うことができ、学習者はそこから多くインプットを得ることが可能になる。そのため本研究は既存の教材が抱えるインプット量の不足を補うことが可能になるGRの制作を目指した。

3. 研究の方法

本研究は2018年、2019年には既存のGRが多読活動を行う上で初級者にとって適した

教材が分析を行った。2020年から2022年は分析結果から初級学習者に適したGRを制作した。以下、この2点の具体的な研究方法を説明していく。

(1) 既存のGRの分析

2018年度は既存のGRを5名の学生に読んでもらい、その要約をし、これを理解度を測るテストとした。またテストでは酒井、神田(2005)では英語多読を行う上で多読三原則、栗野他(2012)の多読の原則に沿った読み方が既存GRにできるのかを測定した。テストに使用した教材は《轻松猫·中文分级读物 Level 1》、《轻松猫·中文分级读物 Level 2》、《彩虹桥汉语分级读物入门级 150 词》を使用した。またこの結果から学習者にとって難しい文法、語彙、表現も明らかにした。さらに長期にわたる多読活動に既存のGRが初級学習者に適しているのか分析するために2019年から8か月の多読活動を行った。この多読活動が初級学習者の運用能力向上に繋がるかについて多読を実施したAクラスと行わなかったBクラスに2回テストを実施し、それを測った。

(2) 初級学習者に適したGRを制作

2020年から上記の(1)で得た分析結果をもとに多読活動に適したGRを制作した。おとぎ話や童話を題材にし、さらに使用語彙、文法は汉语水平(二级)大纲に記載されているものとし、ストーリー上、これから外れる語彙文法の使用が必要な場合はイラストを見て理解できる作りにした。完成したものは半年の中国語学習を終えた学習者2名、1年の学習を終えた学習者2名に読んでもらい、文章を訳してもらい、理解できているのか測った。このテストで学習者の理解が低いものは再度、語彙、文法、イラストを検討し、理解しやすいものに修正した。

4. 研究成果

上記で挙げた研究の(1)(2)の結果は以下ようになった。

(1) 既存のGRの分析

GRの要約

2018年に行った5名の学生のGR要約の理解度は以下ようになった。

| | a | b | c | d | e |
|------------|---|---|---|---|---|
| 我吃了什么 | x | x | x | x | x |
| 爱的苹果 | x | x | x | ○ | ○ |
| 我是你爸爸 | x | x | x | x | ○ |
| 天天想你 | ○ | x | ○ | ○ | ○ |
| 谁是 Miss He | x | ○ | ○ | ○ | x |
| 你好, 中国! | x | ○ | ○ | x | ○ |

表1 《轻松猫1》

| | a | b | c | d | e |
|--------|---|---|---|---|---|
| 东郭先生与狼 | ○ | ○ | ○ | x | ○ |
| 田螺姑娘 | x | x | ○ | ○ | ○ |
| 精卫填海 | x | x | ○ | ○ | x |
| 拷打羊皮 | ○ | x | ○ | ○ | ○ |
| 元宵节的传说 | x | ○ | x | x | x |
| 塞翁失马 | x | ○ | ○ | x | ○ |

表2 《彩虹桥入门》

| | a | b | c | d | e |
|--------------|---|---|---|---|---|
| 饭店, 饭店, 你在哪里 | ○ | ○ | x | x | x |

| | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|
| 原来你在这里 | × | × | ○ | ○ | × |
| 谁偷了宝玉 | ○ | × | × | ○ | × |
| 一年前的作业 | × | × | × | ○ | ○ |
| 妈妈的礼物 | × | ○ | ○ | × | × |

表3 《轻松猫2》

上記の表からわかるように初級学習者は辞書なしでもいくつかの読み物を正しく理解ができている。本研究は上記の結果から学習者にとって難しい文法、語彙、表現も明らかにした。この研究結果は中国語教育学会第17回全国大会および The Fifth World Congress on Extensive Reading において口頭発表を行い、岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要 (5)において論文を投稿した。

8か月の多読活動

8か月の多読活動を初級学習者を対象に行ったが、残念ながら今回の活動では多読を行ったAクラスと行わなかったBクラスの間能力測定テストの結果に統計的有意差は見られなかった。しかしAクラスの第1回テストと第2回テストにおいて点数の伸びが大きい学生が多いことや活動を通して比較的多くの読み物を読了した3名の学生の点数の伸びが大きいことから多読活動がAクラスの学生の中国語能力向上に少なからず貢献していると考えられる。粟野他(2012)によると多読活動は少なくとも半年以上、状況が許せば1年以上の活動を行わなければ能力向上の効果が見られないと指摘している。今回の活動は8か月と若干期間が短く、また夏、冬の長期休暇で活動が一時中断してしまったことから、活動の長さや継続時間に問題があったのではないかと考える。今後はこの問題点を改善し、再度、多読活動が与える影響について検討していきたい。尚、この分析結果は中国語教育学会第18回全国大会において口頭発表を行った。

(2) 初級学習者に適したGRを制作

2020年から2022年に中国語教員4名の協力の元、4冊のGRを完成させた。完成させた作品は『布萊梅的乐团』(ブレーメンの音楽隊)、『座敷童子的故事』(ざしきぼっこ)、『塞翁失馬』(塞翁が馬)、『农村老鼠去城市』(田舎のネズミ都会へ行く)の4作品である。これらを<https://tagengoch.jimdofree.com/>にて公開した。GRの公開形式については多くの日本語の読み物を公開しているNPO多言語多読の粟野氏に助言をもらった。またこの団体が開催している日本語GR制作ワークショップに参加し、学習者がよりわかりやすく感じる提示の仕方、具体的に言うと文字の大きさ、イラストの大きさ、字体などを学習し、これらを中国語GRに取り入れた。最後にGRに対するコメント欄や音声の導入について反省点を挙げていく。学習者の理解度を測るために各GRにコメント欄を設ける予定であったが、予算の関係上実現できなかった。また音声の導入も予算の関係で実現しなかった。これらについては今後の課題としていきたい。

<引用文献>

粟野真紀子、川本かず子、松田緑(2012)『日本語教師のための多読授業入門』アスク出版
Day and Bamford(1998)『Extensive Reading in the Second Language Classroom』Cambridge Language Education

古川裕監修、鈴木慶夏著(2016)『アクション!開始!コミュニケーション中国語』朝日出版社

胡玉華(2009)『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』東方書店

岩井伸子、胡興智(2015)『できる・つたわるコミュニケーション中国語』白水社

酒井邦秀、神田みなみ(2005)『教室で読む英語100万語 多読授業のすすめ』大修館書店

西澤一(2013)「国際交流活動と英語多読による工学系学生の英語運用能力改善」工学教育 61

(1)

Tudor, I., & Hafiz, F. (1989) Extensive reading as a means of input to L2 learning. Journal of Research in Reading, 12(2), 164-178.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石井友美 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 漢語分級読物分析探討“多閱讀活動”的合適性 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 31-42 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/61606 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 石井友美 |
| 2. 発表標題 大学における中国語多読の実践 - 8 か月の多読活動を通して |
| 3. 学会等名 中国語教育学会第 1 8 回全国大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石井友美 |
| 2. 発表標題 中国語初級段階別読み物の分析 「多読活動」の適切性をめぐって |
| 3. 学会等名 中国語教育学会第 1 7 回全国大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石井友美 |
| 2. 発表標題 對外漢語分級讀物分析 探討針對日本中級水平學習者的適用性 |
| 3. 学会等名 The Fifth World Congress on Extensive Reading (國際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

制作した中国語段階別読み物は<https://tagengoch.jimdofree.com/>にて公開した。

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-------------------------------|----|
| 研究協力者 | 田中 理恵子 (Tanaka Rieko) (50779105) | 女子美術大学 (32626) | |
| 研究協力者 | 今井 佳子 (IMAI Yoshiko) | | |
| 研究協力者 | 笹野 和恵 (SASANO Kazue) | | |
| 研究協力者 | 譚 昕 (TAN Xin) | | |
| 研究協力者 | 若森 幸子 (WAKAMORI Yukiko) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|